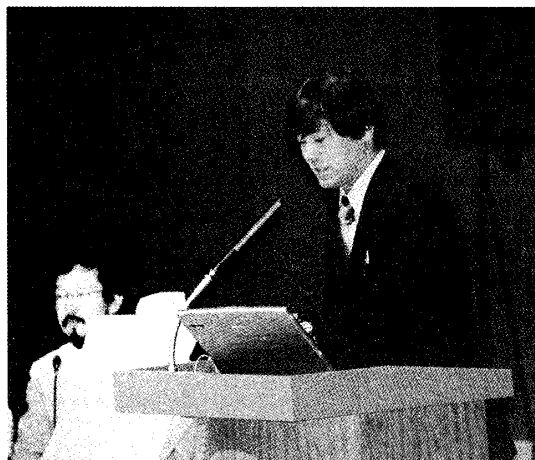


## <挨拶>



三尾：定刻となりました。メディア教育開発センター研修事業のFDシンポジウム「FDの運営を考える」を開会いたします。

まず最初に事務的なお話しをさせていただきます。カメラやビデオカメラをお持ちになりまして撮影される方へのお願いです。基本的には個人試聴目的での撮影は構いません。ただ撮影した内容を使って教材を作るなどの二次利用はご遠慮いただきたいと思ひます。それからこちらメディア教育開発センターの研修事業には、いろいろな講座

があり、お手元のマークシートで講座自身の評価を行っております。お帰りまでにご記入の上提出をしていただきたく、お願いいたします。それでは最初に本日のシンポジウムの企画の背景と目的を私から説明させていただきます。私は今年3月までセンターに勤務しており、現在は客員教員として研修の企画、講師をやらせてもらっています関係上この場に立っております。

まずメディア教育開発センターは、平成9年度に研修事業を立ち上げました。そのうち、シリーズとして「大学授業の自己改善法」ではまず最初は教員個々人の授業改善を支援しようと、表1に上がっているテーマで授業評価、授業改善という説明会を行いました。授業評価を自分自身で実施しているうちはいいのですが、大学の授業を評価することを大学としてはどのように捉えればいいのかという疑問が出てきたので、平成10年度は大学の授業評価を考える機会として、いろいろな評価を行っている先生方にご講演をいただく形式でシンポジウムを行いました。授業評価は教員側の問題だけでなく学生のタイプとか質が変わっているのではないかという意見があり、大学で授業以外に学生の学習を支援するということはどういうことかということで、平成11年度には「変わる学生・変わる大学」という大きな主題を立てまして、いろいろな大学の学習支援、授業以外の学習支援について議論を行いました。平成12年度は授業評価というものが日本の大学にかなり普及してきましたので、それとFDをもう一度問いなおしてみようということで、授業評価では有名な東海大学の実践、それから高等教育研究者からご意見をお聞きし、最後はFDについての共同体を作っていこうという形でシンポジウムを行いました。これらの経緯を踏まえて、今年度はFDが、いろいろな大学で始まっておりますが、実践するにあたっていろいろな問題や苦勞されている状況がメディア教育開発センターで行ったアンケート調査と、各種の講座・講演会でのフロアから意見がみえてきました。そこで、本日のようにFDの運営についていろいろな経験を持ち寄って日本のFDというものを考えていこうという目的で、このシンポジウムが企画されたわけです。実際にFDを大学として行っている先生方に本日お集まりいただきまして、このシンポジウムを企画しております。基本的には講演だけではなくて、第2セッションにはフロアとのあいだでいろいろな討論をしていただければと思っております。堅い雰囲気はなしにして、笑顔でいろいろな発言とかご意見を出していた



できればと思っております。司会の方、吉田先生よろしく願います。

吉田：皆さまこんにちは、本日はようこそ幕張までおいでいただきました。本日司会を担当させていただきます吉田でございます。早速先生方のご紹介に入って、それぞれご講演をお願いするわけですけれども、本日お招きした先生は4名いらっしゃいます。一番最初に橋本勝先生、岡山大学におけるFDの実践をやっておられるということでお招きしました。二番目にお話しいただくのが東洋英和女学院大学の有田先生です。有田先生も情報リテラシーの授業を通してFDをどのように実践的にやっているかということで、大学の事例としてお話しいただきます。三番目にお話しいただくのが金沢工業大学の小川先生です。金沢工業大学の場合には大学としてかなり組織化してFDをやっているから、大学として組織化していく時の事例ということで小川先生にお話しをいただきます。そして最後に指定討論者ということで筑波大学の山本先生をお願いいたします。山本先生は高等教育を領域としてご研究されておられますが、その高等教育研究という点から見てFDの問題をどう考えたらいいかというテーマでお話しをいただきます。それぞれの講師の先生方のプロフィールは先ほどお配りした配布資料の中に入っておりますので詳細はそちらをご覧ください。それでは早速先生方のお話をいただこうと思います。まず最初に橋本先生の方からお願いいたします。

## 1. 誰にとってのFDか ― 岡山大学学生・教員FD検討会が目指すもの

橋本：岡山大学の橋本でございます。主催者の方から15分ないし20分位で話をしてくれという依頼を受けているので、本来ならばすぐ主旨といいますか本題に入らなきゃいけないんですが、性分と致しまして、どこで何を話す場合でも大体前置きに結構、時間を使ってしまうたちでございます。それを急には変えられないものですから、今回の場合もまず少々時間を頂戴いたします。なぜ岡山大学の事例を紹介するのか、という部分を前置きにしたいと思っております。主催者の説明によると長年FDをやっているという大学から講師を招いてという話になっておりますが、それを読みながら本当かなという気になっているんです。つまり、岡山大学ではそれほどFDを活発にやっているという風には明言出来ないと思っております。ただ一通りのことはやっております。シラバスにせよ授業評価にせよ、様々な形でのFDといわれるものは、すべてとはちょっと言えませんが大体のものはやっております。その中からいくつか反省点も出ているし、改善点といいますかそういう経験も少しずつ蓄積している、そういう段階だと思っております。ですからそういう意味ではそれほど特異な例といいますか、先進的な例ということではないと思っております。ならばなぜ岡山大学の人間がしゃしゃり出てきてしゃべるのかということになります。おそらく

